

議 事 録 要 旨

会 議 名 称	令和2年度 第2回加古川市総合計画審議会（第3部会）
開 催 日 時	令和2年8月11日（火）午前10時00分から午前11時40分まで
開 催 場 所	青少年女性センター4階 大会議室
出 席 者	<p><委員></p> <p>部会長 三輪 康一</p> <p>副部会長 大庫 隆夫</p> <p>委員 柿本 和博、久保田 八平、達可 明朝、西 正勝</p> <p><加古川市></p> <p>企画部次長 神戸 生也 企画部参事 竹中 重夫</p> <p>産業経済部次長 山本 要 都市計画部次長 村津 雅淑</p> <p>農業委員会事務局 稗田 清人</p>
会 議 次 第	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>（1）総合計画（原案）について</p> <p style="padding-left: 40px;">基本目標3 活力とにぎわいのあるまち（P72～77）</p> <p>（2）その他</p> <p>3 閉会</p>
会 議 資 料	<p>1 次第</p> <p>2 加古川市総合計画（原案）</p> <p>3 加古川市総合計画審議会委員名簿（部会別）</p>
傍聴者の数	2人

審議内容（発言者、発言内容、審議経過等）	
（事務局）	<p>1 開会</p> <p>（委員の出席状況）</p> <p>（事務局）第3部会委員7名中6名が出席していることを報告</p> <p>2 議事</p> <p><u>（1）総合計画（原案）について</u></p> <p style="padding-left: 20px;">基本目標3 活力とにぎわいのあるまち</p> <p style="padding-left: 40px;">政策（1）農業・水産業を振興する</p> <p style="padding-left: 60px;"><u>施策①農業の振興</u></p> <p style="padding-left: 60px;"><u>施策②水産業の振興</u></p> <p><事務局説明></p> <p>（質疑応答）</p>

<p>(委員)</p>	<p>加古川市の北部地域では、イノシシやアライグマ、最近ではジャンボタニシによる被害が非常に増加している。ジャンボタニシは、田植えした苗を食べてしまい、特に、水路から水を引いている田んぼに発生しやすいことから、志方町や神吉町での被害が大きいと聞いている。私の地区では、ポンプアップで水を引いているため現時点で被害は出ていないが、安心はできない。ジャンボタニシの増加により、被害が発生する可能性は十分にあると考えている。</p> <p>また、イノシシやアライグマへの対策について、上荘地区では、対策用の防護網を設置することで市の担当部署と調整をしているようだが、各地域への配布が11月や12月になると聞いた。その時期では、稲刈りはすでに終わっており、今年の実策にはならない。私も3年前から被害に遭っており、去年は1枚、今年は2枚を休耕している。イノシシの餌づくりをしているようなもので、当然ながら、田んぼも畑も休耕が増えている。私だけの問題ではないので、防護網の配布時期を何とかもう少し早めることができないか。</p> <p>地域においても、檻の設置等の対策は講じているが、罾の仕掛けや撤去には資格が必要となるので、人手の問題も含め、抜本的な解決にはつながっていないのが現状である。姫路市の奥の方や加西市で熊が出たということも聞いたし、イノシシの次は、鹿や熊かと思うとこの先どうになってしまうのか非常に不安である。</p>
<p>(部会長)</p>	<p>有害鳥獣による具体的な被害の実態についてお伺いした。総合計画としては、施策の方向性の1つ目「生産基盤の整備・保全」の2段落目に記載があるので、先ほどのご意見はこの中に含まれると思う。具体的な対策について、事務局から回答できることはあるか。</p>
<p>(加古川市)</p>	<p>有害鳥獣による被害については、当然ながら認識している。以前から防護柵については、地域の方々にご協力をいただき、設置しているところであるが、今年から3年間かけてさらに設置を進めていく予定にしている。柵の設置については、昨年度まで国費を活用して行っていたが、今年度からは市単独の事業ということで力を入れて実施しているところである。しかしながら、大きなものを町内の方々だけで設置することが難しいというご意見もあるので、軽減策はないか検討しているところである。</p> <p>また、配布時期について、農繁期を過ぎてからの方が、都合がよいのではないかと担当課から聞いていたので、11月や12月頃で進めていたが、それが認識誤りということであれば改める必要があると思う。今年度から、各町内に担当課の職員が順次入って調整を進めているかと思うので、具体的なご意見があれば、お伝えいただければと思う。</p>
<p>(委員)</p>	<p>施策の方向性の2つ目「農業経営の安定化」の中で、農業の担い手が不足していますとあるが、現状はどのような状況か。</p>

	<p>志方町や北部地域の大部分は市街化調整区域ということもあり、他の地域からの新しい人の流入が難しいという問題があることは認識している。提案として、加古川市には農業高校が1つあるだけなので、兵庫大学に農学部を新たに設置してはどうかと考えている。そうすることで、農業に関心を持つ若者が加古川市に多く訪れたり、住むことで何かが変わるきっかけになるのではないかと思います。</p>
(委員)	<p>正直に申しあげて、担い手や後継者の問題は非常に深刻であり、そう簡単に進むものではない。市内には、いくつかの営農組合があるが、組合員の平均年齢は70歳を超えている。若者に農業に関心を持ってもらう、農業に関心を持つ若者に就農してもらうということは重要なことであると思うが、農業のみで一人前に所得を得ることは非常に難しい状況である。</p>
(委員)	<p>委員のご意見もよくわかるが、志方町は本当にすばらしい地域であると思う。観光にもよいと思うし、山陽自動車道の加古川北インターチェンジもある。それらを活用すれば、まだまだ様々な可能性があるのではないかと。</p>
(部会長)	<p>担い手に関するご意見については、施策の方向性の2つ目「農業経営の安定化」の2段落目「営農意欲の高い多様な担い手の育成・確保に向けた支援」というところで包括できているのではないかと思います。</p>
(加古川市)	<p>兵庫大学の農学部新設の件については、この場で何か申しあげることにはできないが、農業に関心を持たれている方は、数多くいるのではないかと考えている。本市も委託事業により、育農塾を実施し、期間を通して農業に携わっていただく試みを行っている。しかしながら、それは大学のような専門的なものではない。本当に興味があるというだけの方から、本格的に農業をしたいという方まで、幅広く参加されていると聞いている。また、新規就農者に対しては、当面の間の農業に係る資金の補助事業も実施しているところである。</p>
(副部会長)	<p>私の会社では、6,000坪程度の農園を所有している。会社は地域で育ち90年以上になるが、製品の出荷先は、ほとんどが加古川市外となっている。おそらく、私の会社だけではなく、市内にある多くの企業がそうであろうと思うが、企業が大きくなると、考えなければならないのは、どのように地元へ貢献するかであり、これは、企業としての文化であると考えている。</p> <p>加古川市は、海や川の産物が少ないため、やはり農業が大切であると思う。日本として、食料自給率を上げなければならないという課題もあるが、世界的にもこのたびの新型コロナウイルス感染拡大の影響で、いかに中国に依存していたかということがわかってきて、対応が求められているところかと思う。</p>

	<p>先ほどの議論にもあったが、農業の後継者不足は本当に深刻である。私の会社にも親から譲り受けるなどして、田や畑を持っている者が多くいるが、耕作放棄地になっているという状況にあった。そのため、会社で畑に改良し、野菜を栽培している。今年中には、約100坪の水耕栽培のハウスを建てることを予定しており、その中で、ベルトコンベアや垂直搬送機などを様々に組み合わせることで、10～12人程度が必要な仕事を2人で収穫できる設備を作ろうとしている。これを農家の方に導入してもらえないかと考えている。後継者がいない、人手不足の状況にある中で、どのように農業を続けていくのかは非常に大事な問題になってきている。これを企業としてもお手伝いできないかと考えている。現在は、10～15トン程度の収穫があるが、すべて社員食堂で消費している。栽培場所では、周りの農家の方からも畑を借りてくれないかという依頼が多く寄せられている。</p> <p>企業がいかにボランティア精神を持って、まちおこしに参画するかが重要であることを市に知ってもらいたいと思う。</p>
(委員)	<p>現状は、「田を無料であげます」とした場合でも誰も手を挙げてくれない状況である。自分の将来のことを考えると、無料であげると言われても簡単に引き受けられないのだと思う。</p>
(副部会長)	<p>会社で栽培している野菜を流通させようとしても単価が高すぎて、商業として成り立たないだろうと思う。これも日本の農業の実態である。日本で作る野菜が、海外から輸入される野菜より値段が高かったら、国民はどちらを選ぶか。農林水産省の補助金がないと成り立たない世界である。</p>
(部会長)	<p>人材、担い手不足は深刻な課題である。多様な担い手とあるが、企業による農業経営も1つの手段ではないかと思う。</p>
(副部会長)	<p>人手不足の問題を解決するためには、機械化が絶対に必要であり、企業による農業経営とマテリアルハンドリングシステム(※)の導入が必要かと思う。</p> <p>※マテリアルハンドリングとは、あらゆる場合と時と場所とで、運搬を合理化し、運搬手法を活用して、経済性、生産性を向上することを目的とするものとされている。マテリアルハンドリングシステムとは、それをシステム化したもので、モノの取り扱いを極力減らすとともに、移動距離の最小化、在庫レベルの最適化、ヒューマンエラーの最小化、物損の最小化などを行う。</p>
(委員)	<p>農業の機械化を進めるとなると、非常に大掛かりで、費用面も含め多くの課題があるように思うが、いかがか。</p>
(副部会長)	<p>機械化については、小型化に向けた研究も進んでいるが、行政からの補</p>

<p>(副部会長)</p>	<p>助金も必要ではないかと思う。</p> <p>産業全般として、基本目標3「活力とにぎわいのあるまち」は、原案29ページのまちづくりの基本理念「ひと・まち・自然を大切にし ともにささえ はぐくむまちづくり」を受けての将来の都市像「夢と希望を描き 幸せを実感できるまち 加古川」を実現するために設定された5つの基本目標のうちの1つである。この基本目標3は、産業の育成や人の雇用、税金など、様々な分野に関わりがあるものかと思う。現在、全国と同様、加古川市においても人口減少が続く中、市内の商工業者をどのように増やすのかという点が課題である。年々、商工会議所の退会者が増えていると聞くし、商工業を活性化するには人口減少対策とセットで考えなければならないと思う。明石市には、大きな産業はないし、地場産業もない。しかしながら、施策を大々的にPRすることで人を呼び込むのは上手いと思う。人口が増えると、それに比例するように商業やサービス業も増える。現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、加古川の飲食業は非常に厳しい状況にある。個別の産業の育成・振興も大事であるが、ベースとなる人口をどのように増やすのかという視点も併せて必要かと思う。</p>
<p>(部会長)</p>	<p>もっともなご意見かと思う。加古川市における人口問題については、当該審議会とは別のところで議論されているかと思うが、それでよろしかったか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>人口減少については、我々も非常に危惧し、危機感を持って対応していかなければならないと考えている。本市の地方創生の取組をまとめる、まち・ひと・しごと創生総合戦略において、人口減少とどう向き合うかという視点で現在、第2期総合戦略の策定を進めているところである。まち・ひと・しごと創生総合戦略では、人口減少克服と地方創生に主眼を置いた施策の体系化を図ることとし、“ひと”と“しごと”に注力した取組の方向性を示した計画としている。具体的には、企業誘致への取組や地元企業がこの地域の中で事業拡大を図る、地元で根付くことができるかという部分が重要と考えている。また、人口を増やす取組としては、子育て施策のさらなる充実の必要性を都市間競争が激化していく状況を踏まえたうえで、とりまとめていきたいと考えている。また、地域内の企業の取組としては、74ページの施策の方向性の2つ目の3段落目に「地域企業の事業拡大」という表現で総合計画においても記載しているところである。</p>
<p>(委員)</p>	<p>別のところで議論いただくのは構わないが、そのことを紹介していただけないか。我々の意見が無駄にならないようにご配慮いただきたいと思う。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>いただいているご意見はしっかりと記録し、今後の参考とさせていただきます。</p>

	く。
(委員)	見土呂フルーツパークを観光農園に特化してはどうか。レストランを山の頂上に移設したら集客できるのではないかと思う。現在の施設は開園当時のままかと思うが、今のままでは誰も訪れようと思わないのではないか。レストランを綺麗にし、子どもたちには農業を体験させてみてはどうかと思う。
(部会長)	具体的な提案であった。他になければ、水産業についてはいかがか。
(副部会長)	市で西脇市と調整して、市内の加古川で獲れる魚を加古川の魚として売り出すことはできないか。本市の特徴的な水産業といえば、大濱の海苔くらいしかない。観光振興の面からは貴重な特産品として、大濱にはがんばってもらいたいと思っているが、加古川には、うなぎや鮎などもいるはずなので、特産品として売り出すことはできないのか、と思う。
(加古川市)	東播磨港の尾上や別府地区には漁師がいる。海苔が主であるが、魚も市場に出荷している。川については、内水面でニジマスの放流といった事業も実施しているが、加古川の魚として売り出せるところまではしていないのが現状である。市としても、総合計画に掲げる以上、可能な限り向上をめざしたいと考えているので、貴重なご意見としてお伺いする。
(副部会長)	港に船を持っている方と契約して、「海から眺める神戸製鋼」というツアーが組めないか。観光に関わることであるが、堺市や川崎市などでは実施しているようである。漁船で沖に出て、夜の神戸製鋼を眺めたら、非常に綺麗なようなので、観光振興の面からも海・川の関係者の皆さまと連携できないかと考えている。
	<u>政策（２）工業・地場産業を振興する</u>
(事務局)	<事務局説明>
(委員)	工場立地の促進について、山陽自動車場の加古川北インターチェンジ付近に、工業や物流倉庫を誘致してはどうか。加古川市の中で最も利用されていない場所ではないかと思う。立地条件は非常によいように思う。難しい問題もあるかと思うが、工場や企業立地の関係は志方町にしか可能性がないと思っているので、今一度、土地利用について見直してもらえないか。
(加古川市)	加古川北インターチェンジ付近は、播磨県立自然公園の一角であり、土地利用にはかなりの制限がかかっている。採石場も多くあるが、碎石後は山に戻す条件があるような状況である。田については、農業振興地域とし

	<p>ては場整備を行ったところもあるので、それ以外の土地で使える土地はないかを調査しているところである。以前もご説明したとおり、雨水排水や工業用水などの様々な条件をクリアできる候補地を挙げる調査を進めている。</p>
(委員)	<p>高砂北条線について、神吉の大池までは道が広がったが、計画では、加古川北インターチェンジまでつながるようになっていたかと思う。神吉の大池から加古川北インターチェンジまでの道路の拡幅、4車線化の計画であるが、今後の予定はわかるか。</p>
(委員)	<p>加古川管内の南北をつなぐ道路は弱く、順に4車線化している。高砂北条線は大池まで拡幅が進み、それより北の加古川北インターチェンジまで都市計画決定しているが、順番としてはまだ少し先と考えている。全体の交通量等を見ながら進めているので、具体的にいつと言える状況ではないが、ご理解いただければと思う。</p>
(委員)	<p>都市計画道路の予定線にかかる住居の所有者は、いつになるのだろうと心配しているので、そのことは知っておいていただきたいと思う。</p>
(副部会長)	<p>工場敷地の緑地面積率の緩和について、現在は、加古川市が20%である一方、高砂市は5%であり、この差は非常に大きいと感じている。有効利用率が全然違ってくる。今年の6月議会において、緑地面積率緩和の請願が採択されたことで、企業側からすると非常にありがたいと思っている。これは1つの例であるが、まちづくりにおける他市の先進事例や規制緩和に対する取組を把握することは非常に重要であると思う。</p> <p>また、今後、大型道路の建設が予定されている中で、その道路周辺に物流センターを誘致することがよいのではないか。物流センターは1つ誘致するだけで多くの雇用を生む。工業の振興としているが、新しい産業の誘致に真剣に取り組んでもらいたいと思う。</p>
(委員)	<p>地場産業の振興について、造り酒屋は、以前は14件あったが、今では岡田本家酒造の1件だけとなっている。国包建具や靴下も含め、地場産業の支援なり、PRに力を入れることはできないか。市内で官民が連携し、積極的なセールスを行う必要があると思う。過去に、神戸港を抜本的に変える取組として、官民が連携し神戸港ポートセールスを立ち上げて実施したことがあり、私も携わらせていただいた経験がある。加古川市も民間事業者と連携し、企業回りを行うなど、市が本気で取り組んでいる姿勢を市民の方に見せなければならぬと思う。加古川市には多くの資源があるので、ぜひ本気で取り組んでいただきたい。</p>
(部会長)	<p>要望としてお伺いする。</p>

<p>(加古川市)</p>	<p>本市の地場産業としては、靴下と国包建具を挙げている。国包建具は、高度な技術が必要であることや住宅様式の変化に伴い、なかなか販路拡大が難しいという課題がある。靴下については、皆さんが履くものなので、生産は続いているが、加古川ブランドとして立ち上げることが難しい状況である。しかしながら、ふるさと納税の返礼品として、国包建具や靴下の独自商品を出品いただいております、その点でPRできているのではないかと考えている。</p>
<p>(副部会長)</p>	<p>地場産業に岡田本家酒造も入れていただけないか。市内唯一の酒蔵であり、観光協会としても加古川のお酒がなくならないように頑張ってもらいたいと思っている。</p> <p>また、以前は多くの靴下工場があったが、現在では非常に少なくなったように思う。靴下工場も大変な状況にあるのではないかと思います。</p>
<p>(委員)</p>	<p>岡田本家酒造の酒米を県立農業高校の学生が作っているという話を聞いたことがある。農業の分野から考えても、様々な取組ができるのではないかと思います。</p>
<p>(副部会長)</p>	<p>お酒は流通ルートがあるが、市民の皆さんが、地元のお酒を飲もうという機運を高めることが大切だと思う。また、岡田本家酒造の建物は、古くて情緒があり、非常に綺麗なもので、岡山県的美観地区のように整備できないかとも思う。お酒の消費量は労働人口と比例するようだし、やはり人口を増やさなければならないと思う。</p>
<p>(部会長)</p>	<p>地場産業について、市内外への認知度の向上を図るべきというご意見であるかと思う。他にご意見・ご提案はあるか。</p> <p>工業・地場産業を振興するは、農業や商業だけではなく、都市全体の人口問題等、様々な分野に関わってくる。基本方針で記載することも含めてであるが、もっと大きな相互の関連性をどこかで記載することが必要ではないかと思うので、調整をお願いします。</p>
<p></p>	<p style="text-align: center;"><u>政策（3）商業・観光を振興する</u></p>
<p>(事務局)</p>	<p><事務局説明></p>
<p>(副部会長)</p>	<p>商業・サービス業と観光は不可分であると考えている。私は、観光振興は商業振興に必ずつながるという持論を持って、観光振興に取り組んでいる。中でも、観光の拠点となる施設の整備や、隠れた観光資源の有効活用に取り組もうとしている。加古川市には、歴史や文化を含め、多くの資源</p>

	<p>が埋まっている。これを掘り起こし、いかに活用できるかが重要だと考えている。このことは、決してインバウンド観光のためではなく、まず加古川市に住んでいる皆さんに、「加古川市には面白いところがあったんだ」、「こんなよい場所があったのか」と思ってもらうことで、そこから市外の方に広まり人が集まる、ひいては、移住につながる可能性があるのではないかと思う。</p> <p>人が集まるとホテルも埋まるし、市内で食事をする方も増えるだろう。そのような流れをつくるためにも、観光拠点の整備が必要である。加古川市は、企業誘致をきっかけに6万人の人口が26万人まで増加してきたという経緯がある。そのため、工業がしっかりとしているから「観光は不要である」と手付かずのまま置かれているとしか思えない。加古川市には掘り起こす資源がたくさんあると思うので、自信を持って、市民の皆さんに「楽しいまち」と思ってもらえる取組を実施してもらいたいと思う。</p>
(部会長)	<p>いただいたご意見は、施策の方向性に記載されている内容で読み取れるかと思うが、何か他に強調すべきではないかといったご意見はあるか。</p>
(副部会長)	<p>各企業に企業ミュージアムを作ること呼びかけたいと思っている。現在、私の会社では、1階に映像ミュージアムを設ける予定で、会社の製品や歴史だけではなく、地元の賀古の駅家（かこのうまや）の復元映像図や野口合戦の復元コミックなどを作成し、学生や一般の方に見てもらえるような企業ミュージアムを整備しようとしている。日清食品のカップヌードルミュージアムは非常に人気があると聞くし、アサヒ飲料の明石工場では年間5万人の工場見学があり、キッコーマンの高砂工場でも年間2～3万人の来場があると聞いている。加古川市には数多くの企業があるので、各企業がミュージアムを設置すれば、絶対に観光資源になると思う。</p> <p>また、鶴林寺や日岡山公園をテーマパーク化できないか。升田山の整備はほぼ完成した。加古川のまちが一望でき、川の流れもよく見える。升田山を訪れてもらうためにも、JR加古川駅かJR日岡駅にレンタルサイクルの拠点を整備するとよいのではないかと思う。</p> <p>JR加古川線を観光資源として活用できていないように感じる。広域観光という視点で、西脇市や加西市ともつなげられるし、地元のお酒を飲みながらの観光列車として走らせることはできないか。また、加古川ゴルフクラブについても活用の余地があると思う。市内から割と近いし、プレーが終わった夕方から子どもたちに開放するのも面白いのではないか。最近では、女子プロゴルフが人気であるし、ツアーを誘致できれば何万人という人が集まる。JR加古川駅からシャトルバスを運行させたり、加古川河川敷を駐車場として使用すれば対応できると思うので、加古川ゴルフクラブと連携して進めてみてはどうか。一方、食の観光化については、あまり盛り上がっていないように思う。新しいものよりも、昔からある、かつめし、にくてん、関東煮を打ち出す方がよいのではないかと思う。</p>

<p>(委員)</p>	<p>加古川の知名度を上げるには、若い人に来てもらわないといけないと思う。志方町を中心にして、大学のクラブ活動の合宿を誘致してはかがか。ホテルも建つだろうし、学生には若い頃の思い出として何十年先でも必ず覚えていると思う。このようなジョイント加古川セールスを立ち上げて動いてもらいたいと思う。そうすれば、市民は必ずこちらを向くし、市内の企業も絶対に儲かる。</p>
<p>(委員)</p>	<p>別府港を起点に船のレストラン、神戸にあるコンチェルトみたいなものができないか。見土呂フルーツパークで半日過ごし、別府港で半日過ごせるようになると思う。夜の神戸製鋼が綺麗であるということなので、うまくいくのではないか。</p>
<p>(部会長)</p>	<p>観光資源をつなぐ、ネットワークの形成により、1日滞在できるような観光ルートを作ってはどうかというご意見かと思う。その他にはいかがか。</p>
<p>(副部会長)</p>	<p>野口町に野口観光協会を作ってはどうかと考えている。春に、教信寺を拠点にして、野口桜まつりを開催してはどうかと思っている。観光協会では、市全体を見るが、町内会単位で観光振興する場を設けてはどうかと思っている。観光振興課の支援は必要かとは思いますが、それぞれの町が考えていくことがよいのではないかとと思っている。</p>
<p>(委員)</p>	<p>東播臨海広域行政協議会の枠組みを利用し、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町が合同して、親睦・観光・食フェスティバルを開催してはかがか。</p>
<p>(部会長)</p>	<p>広域観光推進のご意見としてお伺いする。 観光振興は以上とさせていただく。様々な分野と関連しながらのアイデアをいただいた。個別のご意見であることから、総合計画に書き込むことは難しいかと思うが、具体的な取組と総合計画に記載する部分とを事務局で整理してもらいたいと思う。個別項目の審議は終了したが、全体を通してはかがか。</p>
<p>(副部会長)</p>	<p>くどいようだが、新しい何かよりも、加古川市の歴史や文化などの資源を掘り起こし、元々あるもので、いかに楽しく、元気で、人が集まるまちにできるかが大切であると思う。そのための情報発信にも、ぜひ力を入れていただきたいと思う。</p>
<p>(委員)</p>	<p>日岡山公園の頂上にある展望台をもっと活用すべきであると思う。</p>
<p>(副部会長)</p>	<p>J R日岡駅を建て替えるならば、レトロ感を感じられるようにして観光</p>

	<p>拠点にすることも可能であると思う。</p> <p>(部会長) ご意見をいただいた各項目については、総合計画に記載すべきものか事務局でのご検討をよろしく願います。</p> <p>(事務局) 非常に多くのご意見をいただき、感謝申しあげる。ご意見は原案に盛り込むものと、主要な意見としてとりまとめさせていただくものとに分け、主要な意見については、答申としてまとめていきたいと思っている。その内容については、次回、8月24日の第3回審議会でお示しし、その整理についてご説明させていただく予定にしている。</p> <p> (2) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の開催日は、8月24日(月)午後2時から ・ 場所は、加古川市役所新館9階 191会議室 <p>3 閉会</p>
--	---